

吉村順三、中村好文、丸谷芳正の名作「たためる椅子」
ミナペルホネンのテキスタイルと出会いスペシャルエディションが誕生します
2019年5月25日 八ヶ岳高原音楽堂にてお披露目会&受注会開催

関連コンサート「音楽とワインのタベ ～ボーペイサージュと音の仲間たち～」も同日開催
コンサートは12月23日（月 祝）より予約開始



来春、時代を超えて、ものがたりをつなぐ椅子が誕生します。

～「たためる椅子」とミナペルホネンが八ヶ岳で出会う～

30年前、「たためる椅子」は八ヶ岳高原音楽堂の客席椅子として、
建築家 吉村 順三、建築家 中村 好文、家具デザイナー 丸谷 芳正 3名による
共同デザインワークとして生まれました。

日本人のDNAに刻み込まれた所作「たたむ」「しまう」「だす」が基軸となったこの椅子は
時代を超えて、いまなお、新しい風を感じる隠れた名作です。

八ヶ岳高原音楽堂30周年を記念し、来春、世界的なテキスタイルデザイナー皆川 明が率いる、
ミナペルホネンのテキスタイル “dop” が「たためる椅子」と出会います。

テキスタイルでありながら年月とともに廃れるのではなく、
すこしづつ隠れている色があらわれ
使い手とともに、新しい表情をのぞかせる生地。

その未来が、たためる椅子と重なります。あなたはこの椅子を誰に伝えますか。

株式会社八ヶ岳高原ロッジ（代表取締役社長 岩見和敏）は、2019年5月25日（土）、八ヶ岳高原音楽堂の客席椅子として吉村順三、中村好文、丸谷芳正の3名が共同デザインでした「たためる椅子」の限定モデルを、ミナペルホネンとの協業により発表いたします。

株式会社八ヶ岳高原ロッジは、広大な別荘地と、ホテル、コンサートホールからなる株式会社そごう・西武の高原リゾートで、八ヶ岳高原音楽堂は、吉村順三の設計により1988年に誕生しました。2019年に音楽堂が30周年を迎えるにあたり、隠れた名作「たためる椅子」にもう一度光をあてたいという願いから吉村順三、中村好文と深い関わりがある皆川明が率いるミナペルホネンのテキスタイル“dop（ドップ）”をまとった限定モデルを、120脚限定で製作する運びとなりました。

土地の美しさ、懐の深さ、清々しさ、訪れた人々を深く魅了してきたこの八ヶ岳にある音楽堂は、歴史の偶然で生まれた稀有な建物です。

このたびの八ヶ岳高原音楽堂の30周年にあたり、家具としての椅子にとどまらず、いままで株式会社八ヶ岳高原ロッジがつくりだした、「想い」「メッセージ」「ストーリー」に共感くださったみなさまに、その歴史を伝える機会と捉え、今回の取組みにいたしました。

時代、世代を超えて長く使い続けられ、共に人生を歩み、さらに次に繋いでいく椅子にぜひご注目ください。

本作の披露目となる5月25日（土）は、受注会とともに、八ヶ岳高原ロッジと皆川明とも親交が深く、今回のコラボレーションの縁をつないだ岡本英史が造り出す自然派ワイン「ボーペイサーージュ」と、それを慕うミュージシャンによるコンサート「音楽とワインのタベ～ボーペイサーージュと音の仲間たち～」もあわせて開催します。ぜひ、ご参加いただければ幸いです。

「たためる椅子」スペシャルエディション イベント詳細

日時 2019年5月25日（土）

会場 八ヶ岳高原音楽堂/ 〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村 八ヶ岳高原海の口自然郷内 TEL:0267-98-2131

内容 「たためる椅子」ミナペルホネン スペシャルエディション お披露目会&受注会 時間未定 参加費無料

※お披露目詳細については、2019年2月上旬に、八ヶ岳高原ロッジのウェブサイトと特設ウェブサイトにて発表いたします。

同日開催イベント「音楽とワインのタベ～ボーペイサーージュと音の仲間たち～」

日時 2019年5月25日（土）14:00開場 15:00開演 有料

会場 八ヶ岳高原音楽堂/ 〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村 八ヶ岳高原海の口自然郷内 TEL:0267-98-2131

内容的に世界的評価が高く入手困難な、八ヶ岳の麓・津金の幻の自然派ワイン「BEAU PAYSAGE（ボーペイサーージュ）」と八ヶ岳高原音楽堂。自然がつくりだす素晴らしいワインと音を“美しい風景”の中で楽しむ、特別なコンサートを行います。岡本英史と縁のある感性の豊かな音楽家たちが、八ヶ岳の麓に広がる“美しい風景”を音楽で表現し、その余韻をワインで楽しむ至高のひとときをお楽しみください。

出演 orbe（haruka nakamura & 田辺玄）/ピアノ・ギター

森ゆに/ピアノ・ヴォーカル、坂ノ下典正/ギター

予約 12月23日（日・祝）10:00～ 予約受付開始/ 電話予約0267-98-2131

※終演後（17:00頃～18:00頃）に、テーマに沿った「ボーペイサーージュ」のワインをお楽しみいただけます。

※本コンサートは、3つのプランからお選びいただけます。

- ・コンサートのみ
- ・コンサート+ブッフェパーティー
- ・コンサート+ブッフェパーティー+ご宿泊プラン

※詳しくは、リンクよりご覧ください。

<http://www.yatsugatake.co.jp/event/concert/2019/0525/flyer.pdf>



たためる椅子

1988年に吉村順三が設計したハケ岳高原音楽堂のために、音楽堂完成の2年後の1990年に、吉村順三、中村好文、丸谷芳正、3名の共同デザインにより発表され、300脚製作されました。

「たためる椅子」は、「本格的にきちんと座れるフォールディングチェア」として、「座布団」のコンセプトを椅子へと昇華し、折りたためる機能性と、座り心地の良さに加え、収納性にも優れ、木製の専用スタンドを使うことで収納にも適しています。

シンプルながら、快適性・機能性・美しさを兼ね備えたこの椅子製作当初の仕様から、吉村順三、中村好文、丸谷芳正の3人が共同で試作改良を重ね、現在では、設計工房MandMにて販売されています。

商品概要

サイズ W575 D560 H700 SH360 (mm) /折りたたみ時:W595 D115 H805

素材 本体：ベイマツ 木製ヒンジ 座受：カシ 座：本革

デザイナー

吉村順三、中村好文、丸谷芳正



*写真はオリジナルバージョンです。

ミナ ペルホネンのテキスタイルをはったイメージについては2019年春以降にご用意いたします。

「たためる椅子」×ミナ ペルホネン スペシャルエディション

期間限定で、限定120脚のみの販売を予定しています。たためる椅子の座面が、ミナ ペルホネンのテキスタイル（ポリエステル、コットン）になります。

皆川氏がハケ岳にインスピレーションをうけて選んだ計9色の中から色をお選びいただけます。鮮やかな色そのものが引き立つ無地の "dop" と、蝶の刺繍が施された "dop - choucho -" で展開予定。月日がたっても生地が廃れるのではなく、少しずつ隠れている色があらわれるミナ ペルホネンの世界とたためる椅子のストーリーにご期待ください。

※商品詳細については、2019年2月上旬に、特設ウェブサイトにて発表いたします。



参考資料

八ヶ岳高原海の口自然郷

1963年、放牧により荒れ果てた牧場跡地を中心とした計画地（約200万坪）に、30万本以上の樹木を植えることから海の口自然郷の歴史は始まりました。その後、自然との共生をめざしながら現在に至っています。この土地では、八ヶ岳連峰の東山麓、標高差が約400mの緩斜面に、南北に約2.6km、東西に約5.5kmの規模で広がります。場所によって土地は表情を変え、そこで出会える自然の美しさは多種多様です。八ヶ岳高原ロッジ、八ヶ岳高原音楽堂、そして八ヶ岳高原ヒュッテ。八ヶ岳高原海の口自然郷の主要施設に隣接する「中原地区」。四季を通じて、八ヶ岳連峰の雄大な姿を水面に映し出す、美鈴池を中心に広がる「美鈴地区」をはじめ、8つの地区から構成されています。



八ヶ岳高原ロッジ

コナシやシラカンバに抱かれるように建つ、落ち着いた高原のホテルです。天然木の柱や梁が印象的なロビーは、自然を満喫しながらゆっくりとした時間をお過ごしいただけます。2つのレストラン、7タイプ68室からなる八ヶ岳高原ロッジは、多目的ホールやアートサロン、バーも備えています。



八ヶ岳高原ヒュッテ

自然郷のシンボルとして親しまれている八ヶ岳高原ヒュッテは、1968年（昭和43年）この地に移築され翌年ホテルとして営業を開始しました。1976年（昭和51年）にはテレビドラマ「高原へいらっしゃい」（田宮二郎・由美かおる主演）の舞台としても利用されています。

イギリス中世のチューダー様式（木造軸組工法2階建て・延床面積は799㎡）のこの建物は、元侯爵徳川義親氏（1886～1976 尾張徳川家19代当主）の邸宅で、1934年（昭和9年）東京の目白に建てられました。設計は、上野東京帝室博物館（現東京国立博物館）や日比谷第一生命館、銀座和光などをてがげた渡辺仁氏（1887～1973）。現在はゴールデンウィークと夏季（7月中旬～9月初旬）のみティールーム、レストラン、ヒュッテ展示案内、売店の季節営業となります。

*2019年7月まで耐震強化および改装工事中。



八ヶ岳高原音楽堂

開発当初、別荘地「八ヶ岳高原海の口自然郷」には、音楽好きなオーナーが多く、互いに持ち寄った自慢のレコードによる鑑賞会が開かれていました。1974年八ヶ岳高原ヒュッテの前庭で行われた“八ヶ岳高原レコードコンサート”が音楽堂誕生の契機となりました。翌年には「大自然の中で生の演奏を」との声が高まり、1975年8月、初めてのサロンコンサートが開かれました。以来、国内のトップアーティストはもとより、海外からもリヒテル、アシュケナーズなど、錚々たる音楽家がこの地を訪れました。そして1988年、吉村順三の設計により「八ヶ岳高原音楽堂」が誕生。こけら落しは世界的なピアニスト・スヴァトスラフ・リヒテルが音楽監修をした「八ヶ岳高原音楽祭'88」。彼の監修する音楽祭はフランスの「ツール音楽祭」、モスクワの音楽祭「12月の夕べ」について、世界で3つめのものとした。スメタナ弦楽四重奏団やキース・ジャレット、クロノス・カルテットなどのアーティストもこの音楽堂で見事な演奏を披露しています。音楽堂の誕生にあたり、リヒテル氏と日本を代表する作曲家・武満徹氏がアドバイザーとしてむかえられました。1989年、八ヶ岳高原音楽堂は毎日芸術賞を受賞しています。

